

第3学年社会科 「品質を追求し、地域に貢献しようとするソーセージ工場の仕事」

学習指導者 網野 未来

単元の概要・子供と共有した目標 自らの目標に向かう姿

おいしいソーセージを生産している工場の仕事の様子を明らかにするために、製造工程や、衛生や環境保全に気を付けていること、流通の流れを調べていった。その後、工場の人が、給食用のソーセージを坂出の子供たちに無料で配っていることについて疑問を抱いた子供たちは、子供や工場の人々の立場から配ることのよさを考え、工場の人が地域貢献を行う理由を深めていった。

見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

まず、前時の学習内容を確認した。そして、「みんなで考えたいことを決めるためには、どうすればよかったかな」と問いかけ、「これまでに見付けた疑問の中から、みんなで考えるべきことを話し合っ

私のはてなは、「工場の人には、なぜ3322本も無料で配ったのか」だよ。

班の話合いでは、はてなリストを使って、みんなで考えたいことを伝え合っていた。

僕も似ていて、「なぜ坂出の子供だけに配ったのか」だよ。

全体の話し合いでは、班の代表者が、みんなで考えたいことを発表していった。友達の発言に付け足しをしたり、同意したりしていた。本時考えたいものがどれかを話し合い、学習課題を設定していった。



工場の人には、なぜ無料で坂出の子供たちに給食用のソーセージを配ったのだろう

行動 諦めずに試行錯誤する姿

給食にソーセージを配ることが、子供たちも工場の人もお互いにメリットがあることを共有した。その後、吹き出しカードに書いたものを手がかりに、考えの異同を意識しながら自由に交流できる場を設定した。全体交流では、おいしいソーセージを食べられるよさや、工場の人へのやりがいにつながるだけでなく、ソーセージをより広く知ってもらふよさも深めていった。話し合ったことは、工場の人への話の資料を使って確かめた。

子供にとっては、おいしいソーセージを食べられるのがいいよ。

どちらかの立場に立って自分の考えを表現する姿が見られた。また、自分が納得した友達の考えをカードに書き加える子供もいた。

全体の話し合いでは、無料で配ることが、子供たちにとっても、工場の人にとっても、嬉しさにつながることに気付くことができていた。



そうだね。子供たちが、おいしそうに食べてくれたら、工場の人들도嬉しいと思うよ。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿

振り返りカードに「分かったこと」や「よかったと思う学び方」について記述する場を設定した。その後、記述したことを全体で共有し、分かったことを基に、さらに知りたかったことや疑問をはてなリストに記述するように促した。

工場の人には、地域に貢献したいという理由があることが分かりました。

板書や資料を基に、分かったことを記述したり、自分のよかった学び方を確認したりする姿が見られた。



考察 (○：成果、▲：課題)

- 行動場面の始めに、二つの立場のよさを考えることを共有することで、考えをつくりやすくなった。
- 単元を通してはてなを表出させることで、問題を発見する力が少しずつ身に付いてきた。
- ▲ みんなで考えたいことを決める基準を明確に設けることで、課題の設定がさらにしやすくなる。子供たちが既習事項を基に考えたり、意見を述べたりできるよう、教師のコーディネートが必要である。



